

はつくつ 2013

弥生時代から古墳時代前期のムラ

中沢(なかさわ)遺跡

弥生～古墳時代

中沢遺跡は、栗東市の中沢、小橋から草津市の西宮川二丁目周辺にわたって広がる遺跡で、遺跡の広さは、東西約950m、南北約850mに及びます。弥生時代と古墳時代が中心となる遺跡で、とくに弥生時代は、前期から後期に至る400年の長期間に及ぶ集落が見つかっており、地域の拠点として機能していたようです。

今回の調査では、弥生時代中期後半から古墳時代前期にかけての溝および建物などが確認されました。弥生時代中期後半の溝は、南北方向に長さ30mほど確認され、幅約2m、深さ約1mで、断面はV字状に近い台形になっています。この溝に並行するように8m程の間隔をあけて弥生時代後期の

溝が確認されています。中沢遺跡では一見守山市の下之郷遺跡のように多重(4条以上)の溝で集落を囲っているように見えますが、時期毎に分けると隣接する下鈎遺跡同様、1～2条の溝で集落を囲っていたようです。

出土遺物は、弥生時代中期から古墳時代前期にかけての土器をはじめ、石鏃、石剣、石包丁、石錘などの石器が出土しています。(近藤)



溝から出土した壺(弥生時代中期後半)



集落を囲る溝



掘立柱建物・土坑

奈良時代の土馬と平安時代の銅銭195枚が出土

下鉤東・蜂屋(しもがりひがし・はちや)遺跡

奈良～平安時代



登窯で焼かれた陶質の土馬(長さ16.6cm)
馬具の表現などが写實的に作られた優品

下鉤東・蜂屋遺跡は7～8世紀の白鳳寺院跡や10～13世紀を中心とする集落遺跡です。今回の調査は白鳳寺院の一面と、その北東側で実施し、多数の掘立柱建物や井戸、溝などを検出、出土遺物では土馬1点や古代銭貨が多量に出土しました。

土馬は河川からの出土で、雨乞いのため水神に捧げられたと考えられます。

稲作などの農業が普及定着して以来、人々は日照りに悩まされ、様々な形で神仏に雨乞い祈願を行いました。牛馬を用いた雨乞い祭祀は古代中国から伝わったもので、「日本書紀」には、皇極天皇元年(642)年に「日照りが続き、牛馬を殺し神社の神に捧げ、読経して仏に祈ったが効き目がなく、ついに天皇が川上で祈ると大雨になった」



土馬の出土状況 実測図を作製



土馬が出土した河川跡

という記事があるように、馬をイケニエにする雨乞いが行われたことがわかります。しかし雨乞いの際に馬を殺すわけにもいかず、土馬で代用されるようになりました。奈良時代には板に馬を描くものも現れ、それが絵馬の始まりです。

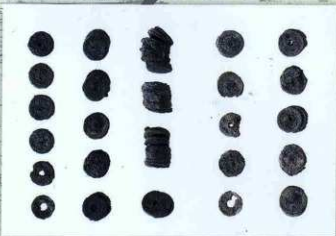
銅銭が出土したのは、掘立柱建物の柱穴や建物周辺に掘られた9ヶ所の穴です。陶器に5から10枚を入れて埋納するものと、10数枚をひもに通して直接埋納するものがあり、その総数は195枚にのびります。建物を造る際の地鎮祭祀で土地の神に捧げたとみられます。銅銭は皇朝十二銭という奈良時代から平安時代にかけて製造された12種類の銅銭のうち、11番目の延喜通寶と12番目の乾元大寶(いずれも10世紀)です。銅銭を入れた陶器は4点で、緑色の土薬をかけた緑釉陶器2点と灰色の土薬をかけた灰釉陶器2点です。そのうち緑釉陶器2点は希少価値の高い持ち手の付く水差しでした。

このように多数の銅銭や高級陶器の壺を用いた地鎮祭の痕跡は、この地に財力のある豪族が存在していたことを裏付ける貴重な発見となりました。

(佐伯)



銭貨の出土状況



延喜通寶(左3列)と乾元大寶(右2列) 直径1.9cm



壺と古代銭貨

弥生時代中期の甕棺を発掘

中沢(なかざわ)遺跡

弥生時代 中期後半



遺構検出状況



遺構完掘状況



甕の出土状態

中沢遺跡は弥生時代前期から後期まで連続と集落が営まれる拠点の集落で、その範囲は栗東市域から草津市にかけて広がっています。本調査では、弥生時代の周溝付建物1棟が出土し、その建物の東側5mから弥生時代中期の甕が出土しました。甕は近江地域に特徴的に見られる受口状口縁甕です。口径32.5cm、器高43.5cmの大きな製品で、底部を打ち欠き穿孔していることから乳幼児などを葬った甕棺の可能性がります。

その他の遺構としては、古墳時代の溝や平安時代の掘立柱建物2棟などが見つかりました。

(佐伯)



甕棺(弥生時代中期後半)



栗東市

滋賀県

はっくつ 2013 栗東市話題の発掘調査

発行日 2014年3月31日

編集発行 公益財団法人栗東市体育協会

〒520-3011

滋賀県栗東市下戸山47番地

栗東市出土文化財センター内

TEL077-553-3359 FAX077-553-3514

印刷 マルキ印刷株式会社